

東北日本海側1年1作地帯の 大規模水稻・大豆輪作集落営農型法人における スマート農業による生産性向上の実証 【(農)たねっこ(秋田県大仙市)】

目的

水稻・大豆のブロックローテーションを行っている集落営農型法人において、労力不足、大区画圃場の活用、地力・排水むら、農地集積への対応といった課題をスマート農業技術により解決し、収益を向上させます。

実証内容

- ①自動操舵による高能率化
- ②直進アシスト田植機の速度連動機能による正確な資材使用
- ③リモコン草刈機による法面除草の高能率化
- ④生育マップと収量マップに基づく可変基肥による水稻の安定多収栽培
- ⑤適期灌水、および収量と熱画像マップに基づく排水対策による大豆の安定多収栽培

目標

1. 収益5%増
2. 水稻、大豆5%増収
3. 自動操舵による作業時間減（対象作業10-11%減）

問い合わせ先

農研機構東北農業研究センター： TEL 0187-66-2776 / e-mail shira@affrc.go.jp
白土宏之（実証代表者）



①自動操舵+トラクター



①自動操舵+大豆用管理車



②直進アシスト田植機



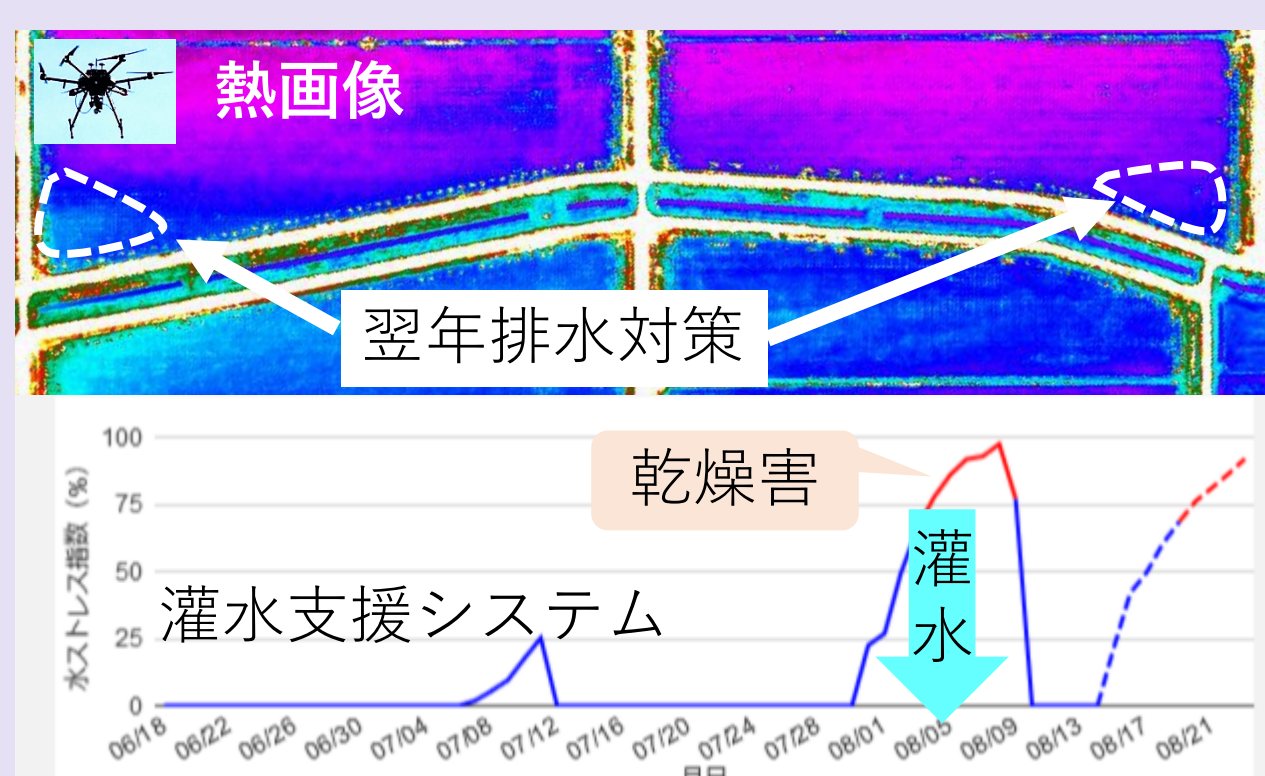
③リモコン草刈機



翌年
施肥
マップ

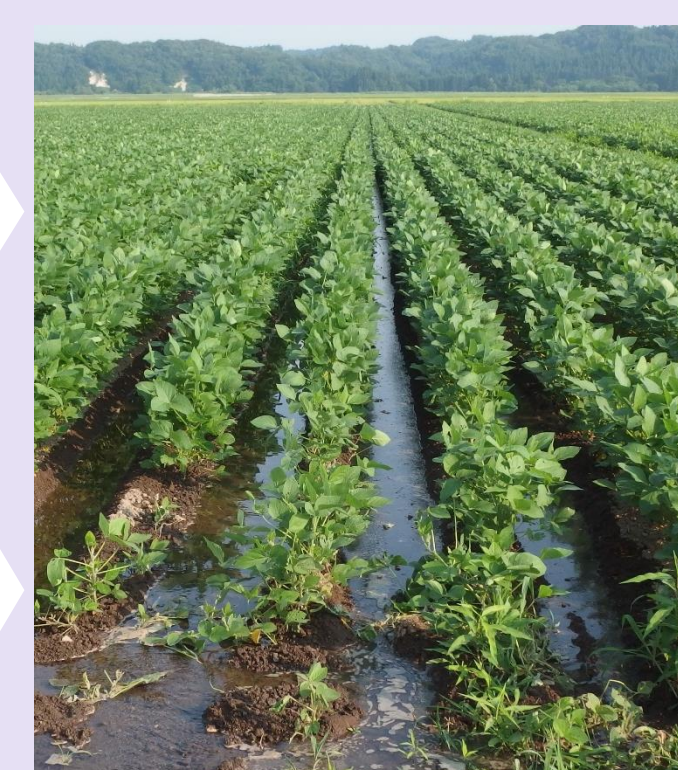


④生育マップ（左上）、収量コンバインと収量マップ（左下）、可変施肥ブロードキャスタ（右）



翌年
排水
対策

灌水



⑤熱画像（左上）、灌水支援システム（左下）、大豆圃場の灌水（右）

